福井大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

（2026 年 4 月）

1．専門医制度の理念と専門医の使命

①　麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

②　麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2．専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である福井大学医学部附属病院(本院)に加えて，福井県立病院，福井赤十字病院など福井県内の主要病院全てを専門研修連携施設としている．さらに，心臓血管手術，小児手術の症例が豊富な県外の病院も連携施設として，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム

全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている.

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間，後半2年間のうち６ヶ月は，専門研修基幹施設で研修を行う.
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する.
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，心臓血管手術の麻酔を中心に学びたい者へのローテーション(後述のローテーション例B)，小児手術の麻酔を中心に学びたい者へのローテーション(後述のローテーション例C)，集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する.
- 地域医療の維持のため，最低でも3ヶ月以上は福井県地域医療支援病院である赤十字病院，済生会病院，または県立病院で研修を行う.
- 年数回のプログラム全体での研究会，発表会を計画し，学習の機会と交流を図る.

研修実施計画例

	A（標準）	B（循環器）	C(小児)	D（集中治療）
初年度 前期	本院	本院	本院	赤十字病院
初年度 後期	本院	本院	本院	赤十字病院

２年度 前期	勝山病院	京都府立医科大学	本院	本院
２年度 後期	市立敦賀病院	京都府立医科大学	本院	本院
３年度 前期	済生会病院	県立病院	赤十字病院	本院
３年度 後期	埼玉小児	県立病院	済生会病院	埼玉小児
４年度 前期	本院	埼玉小児	県立病院	京都府立医科大学
４年度 後期	本院	本院	埼玉小児	京都府立医科大学

上記ローテーションにより，研修期間中に必要な全身麻酔症例及び特殊症例(小児の麻酔，帝王切開術の麻酔，心臓血管手術の麻酔，胸部外科手術の麻酔，脳神経外科手術の麻酔)を経験することができる．

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	集中治療室	抄読会 手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室 循環器カンファレンス	手術室	集中治療室	手術室	手術室 症例検討会	休み	休み

待機		待機				（待機）	

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数:　　35,028 症例

本研修プログラム全体における総指導医数：　93 人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	2783 症例
帝王切開術の麻酔	520 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	2422 症例
胸部外科手術の麻酔	1404 症例
脳神経外科手術の麻酔	1042 症例

①　専門研修基幹施設

福井大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：松木悠佳

専門研修指導医：松木悠佳（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

長田　理（麻酔）

次田佳代（麻酔）

松田修子（麻酔,ペインクリニック）

安間記世（麻酔）

藤岡沙織（麻酔）

宗石啓和（麻酔）

片岡　澪（麻酔）

伊藤彰仁（麻酔）

田中克弥（麻酔）

麻酔科認定病院番号：303

特徴：心血管手術麻酔，集中治療，ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数：　　3834 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	90 症例
帝王切開術の麻酔	134 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	160 症例
胸部外科手術の麻酔	211 症例
脳神経外科手術の麻酔	142 症例

②　専門研修連携施設

a. 福井赤十字病院

研修実施責任者：福岡　直

専門研修指導医：福岡　直（麻酔）

田邊　毅（麻酔）

白塚秀之（麻酔）

田中弓子（麻酔）

齊藤律子（麻酔）

山岸一也（麻酔）

藤岡沙織（麻酔）

麻酔科認定病院番号：733

特徴：地域医療支援病院，集中治療管理

麻酔科管理症例数：2,518 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	8 症例
帝王切開術の麻酔	3 症例
胸部外科手術の麻酔	24 症例
脳神経外科手術の麻酔	30 症例

b. 福井県済生会病院

研修実施責任者：新江　聡

専門研修指導医：新江　聡　（麻酔）

下　弘一　（麻酔）

木村みどり（麻酔）

佐上　祐介（麻酔）

三橋　梓実（麻酔）

麻酔科認定病院番号：674

特徴：地域医療支援病院，産科麻酔

麻酔科管理症例数：2,385 症例

	本プログラム分

小児（6歳未満）の麻酔	11症例
帝王切開術の麻酔	48 症例
胸部外科手術の麻酔	95 症例
脳神経外科手術の麻酔	28 症例

c. 市立敦賀病院

研修実施責任者：川上浩文

専門研修指導医：川上浩文（麻酔，ペイン）

麻酔科認定病院番号：675

特徴：ペイン外来

麻酔科管理症例数：693 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	41症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	16症例

d. 福井県立病院

研修実施責任者：樋下　徹哉

専門研修指導医：樋下　徹哉（麻酔）

我喜屋　徹（麻酔）

岩佐　智子（麻酔）

森川　洋平（麻酔，心臓血管麻酔）

専門医：田中　智哉（麻酔）

特徴：地域医療支援病院，福井市の中核病院，心臓手術，小児麻酔

麻酔科認定病院番号：201

麻酔科管理症例数：2,828 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	67 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10 症例

e. 京都府立医科大学附属病院

京都府立医科大学附属病院

研修実施責任者：天谷文昌

専門研修指導医：天谷文昌（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）

小尾口邦彦（集中治療）

石井祥代（麻酔）

内藤慶史（麻酔）

飯田　淳（麻酔）

早瀬一馬（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）

松田　愛（麻酔・集中治療）

木下真央（麻酔）

山北俊介（麻酔）

井上美帆（麻酔・集中治療）

谷口彩乃（ペインクリニック・緩和医療）

前田知香（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）

山田知見（麻酔）

堀井靖彦（麻酔）

松岡　豊（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）

永井義浩（ペインクリニック・緩和医療）

井上敬太（麻酔・集中治療）

仲宗根ありさ（ペインクリニック・緩和医療）

大屋里奈（ペインクリニック・緩和医療）

平川由佳（ペインクリニック・緩和医療）

松尾佳那子（ペインクリニック・緩和医療）

越田晶子（ペインクリニック・緩和医療）

専門医：北口菖子（麻酔・集中治療）

髙橋裕也（麻酔）

矢持祥子（麻酔）

藤田　怜（麻酔）

小川達也（ペインクリニック・緩和医療）

麻酔科認定病院番号：18

特徴：集中治療、ペインクリニックのローテーション可能

f. 公立丹南病院

研修実施責任者：藤林　哲男

専門研修指導医：藤林　哲男（麻酔）

高田浩太郎（麻酔）

佐藤　倫祥（麻酔）

麻酔科認定病院番号:1307

特徴：福井県丹南地域の中核病院

麻酔科管理症例数：625 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	7 症例
帝王切開術の麻酔	29 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	9 症例

g. 兵庫医科大学病院（以下、兵庫医大病院）

研修プログラム統括責任者：植木 隆介

専門研修指導医：狩谷 伸享 （麻酔，産科麻酔，緩和医療）

髙雄　由美子（麻酔，ペインクリニック，疼痛治療全般）

植木　隆介（麻酔，心臓麻酔，術後疼痛）

竹田　健太（麻酔，集中治療）

井手　岳　（麻酔，集中治療）

奥谷　博愛（麻酔，ペインクリニック，心臓麻酔）

田口　真奈（麻酔，集中治療）

藤本　幸一（麻酔，集中治療）

岡本　拓磨（麻酔，小児麻酔，心臓麻酔，集中治療）

緒方　洪貴（麻酔，ペインクリニック）

佐藤　史弥（麻酔，ペインクリニック，小児麻酔）

宮本　和徳（麻酔，小児麻酔，ペインクリニック）

大場　祥平（麻酔、小児麻酔）

城戸　茜　（麻酔，集中治療）

尾下　幸子（麻酔，心臓麻酔）

濱中　優花（麻酔一般）

池垣　友康（麻酔，ペインクリニック，心臓麻酔）

麻酔科認定病院番号　85

特徴：麻酔科管理症例は緊急症例を除き、全例麻酔科術前外来受診を行う。安全かつ効率的な手術室運営を構築し、麻酔科管理症例数は全国でもトップレベルである。また、大学病院の特性から、極めてまれな症例、ハイリスク症例など特殊な麻酔管理も行われ、貴重な症例は学会で報告し、臨床麻酔のレベルアップに貢献している。基礎的な手技ひとつひとつを丁寧に指導し、特に気道確保のトレーニングは豊富なデバイス資源を元にプロならではの領域を目指す。各科との協力体制も良好で、手術室の支柱としてコミュニケーション能力には定評がある。高機能シミュレーターによるトレーニングも可能である。また、大学院博士課程専攻、ペイン，緩和ケア、集中治療のローテーションなどのプログラムを構築することができ、各専攻医の目標に沿った研修を計画する。育児中の女性医師の教育支援体制を構築中であり、麻酔科医としての成長と両立する道を探る。

前年度麻酔科管理症例数(2025年度)

麻酔科管理全症例数：6124例

小児（6歳未満）の麻酔：193例

帝王切開術の麻酔：145例

心臓血管手術の麻酔：287例

胸部外科手術の麻酔：482例

脳神経外科の麻酔：318例

h. 小倉記念病院

小倉記念病院

研修実施責任者：角本　眞一

専門研修指導医：角本　眞一（麻酔、集中治療）

中島　研　（救急）

宮脇　宏　（麻酔、集中治療）

近藤　香　（麻酔、集中治療）

松田　憲昌（麻酔、集中治療）

栗林　淳也（麻酔、集中治療）

小林　芳枝（麻酔、集中治療）

生津　綾乃（麻酔、集中治療）

柳　　明男（麻酔、集中治療）

釜鳴　紗桐（麻酔、集中治療）

彼末　行世（麻酔、集中治療）

研修委員会認定病院：52

特徴：心臓大血管手術のみならず、TAVR、Mitral clipなどの低侵襲手術にも力を入れている。循環器疾患を合併した非心臓手術の麻酔症例も数多く経験できる．集中治療にも力を入れている。

i.杉田玄白記念公立小浜病院　（以下、公立小浜病院）

研修実施責任者：荘司　勧

専門研修指導医：荘司　勧（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1226

特徴：福井県嶺南地域の中核病院

麻酔科管理症例数 870 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	9症例
帝王切開術の麻酔	10症例
胸部外科手術の麻酔	4 症例
脳神経外科手術の麻酔	24症例

j. 埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者：蔵谷　紀文

専門研修指導医：蔵谷　紀文　（麻酔・小児麻酔）

濱屋　和泉　（麻酔・小児心臓麻酔）
古賀　洋安　（麻酔・小児麻酔）
伊佐田　哲朗　（麻酔・小児麻酔）
小嶋　大樹　（麻酔・小児麻酔）
大橋　智　（麻酔・小児麻酔）
駒崎　真矢　（麻酔・小児麻酔）
高田　美沙　（麻酔・小児麻酔）
坂口　雄一　（麻酔・小児麻酔）
藤本　由貴　（麻酔・小児麻酔）

鴻池　利枝　（麻酔・小児麻酔）

専門医：影山　翔一　（麻酔・小児麻酔）

認定病院番号　399

特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。

麻酔科管理症例　3908例（2025年度）

k. 福井勝山総合病院

研修実施責任者：小原洋昭

専門研修指導医：小原洋昭（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1405

麻酔科管理症例数：346 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2 症例
脳神経外科手術の麻酔	15 症例

l. 福井総合病院

研修実施責任者：澤田直之

専門研修指導医：澤田直之（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1763

麻酔科管理症例数：530 症例

	本プログラム分
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

5. 募集定員

8 名

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する.

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である.

福井大学医学部附属病院　麻酔科蘇生科 松木悠佳

〒910-1193　吉田郡永平寺町松岡下合月23-3

TEL：0776-61-8116

E-mail：fanesth@ml.u-fukui.ac.jp

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に

寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

・専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

・専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

・専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

・専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

指導医は日本麻酔科学会やその関連学会が準備する講演や e-Learning 等を受講し，専攻医への適切な指導に反映させる．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して２年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して２年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して４年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- ２年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし２年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．

- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，福井県嶺北地域医療の中核病院としての済生会病院，赤十字病院，県立病院，嶺南地域医療の中核病院としての敦賀市民病院，公立小浜病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する．就業

環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導します.